

# ジビエの拠点完成

## 延岡市松原町に「まつだ屋ジビエ」

### 最新機材導入、国内屈指

県内で捕れたイノシシやニホンジカを解体・加工し、ジビエ食材として販売する施設が延岡市松原町の土々呂中学校前に完成し、16日に落成式があった。太田昭宏元国交大臣、江藤拓衆院議員の妻順子さん、読谷山洋司市長ら関係者約100人が出席。来賓の代表が紅白のテープをカットして完成を祝い、有書鳥獣駆除の進展と「宮崎ジビエ」の発展に期待を寄せた。(8面に関連記事)



施設の完成を祝ってテープカットを行う関係者  
(16日、延岡市松原町)

同町のマツダコーポレーション(松田秀人代表)が2080平方メートルの敷地に、鉄筋造り平屋建て199平方メートルの処理加工施設と、別棟の薫製室(30平方メートル)を建設した。

完成した施設の屋号は「まつだ屋ジビエ」。処理施設は今月下旬に稼働し、精肉や加工品を販売する直売所も12月にオープンする。  
処理・加工や衛生面で

は最新の機材を導入し、万全の体制を整備した。ジビエ食材の施設としては規模、内容ともに国内屈指。松田代表は「日本中探してもどこにもないものができた」と胸を張る。用地を除いた事業費は9817万円のうち2分の1を国から補助を受けた。  
農水省は今年3月、イ

ノシシやニホンジカなどの捕獲と食材としての普及拡大のために、全国17地区をジビエ利用モデル地区に選定した。本県で唯一選ばれたのが「延岡市ジビエ振興コンソーシアム」。県や市、食肉店、九保大(有識者)による構成で、その主体となるのがマツダコーポレーション。  
これまでも品質にこだわった徹底管理で精肉の評価は高く、県外の有名レストランからの引き合いも多い。施設が完成したことで、これまで以上に先進的な取り組みを展開するという。

# 細島灯台、国文化財に文化審

国の文化審議会（佐藤信会長）は16日、日向市の細島灯台など県内の建造物4件を国有有形文化財に登録するよう柴山昌彦文部科学大臣に答申した。正式登録は来年3月

ごろの見通し。県内の国登録有形文化財（建造物）は102件となる。細島灯台は日向岬に立つ。明治43年に点灯された。当初は赤レンガ造りだったが、昭和16年にコンク

リート造りに改築。戦時下で予算が不足し、建設には地元青年団が勤労奉仕したと伝えられる、平成3年に現在の姿に改良された。高さは11.5メートル。半円アーチ型に突出した出

入り口など昭和初期に流行したデザインが細部に見られる。近くには侵食された岩

礫が「叶」または「十字」にも見えることから名付けられ、訪れると願いが叶（かな）うとの言い伝えがある「クルスの海」

があり、昨年6月には日本ロマンチスト協会の「恋する灯台」に認定された。

ほかの3件は日南市の鞍崎（くらさき）灯台と服部植物研究所、串間市の都井岬灯台。

## あす、10周年記念イベント

海の駅ほそしま

海の駅「ほそしま」の10周年記念イベントは18日午前10時から、日向市細島の同駅である。オープニングセレモニ

ー後に餅まきがあるほか、午前11時と午後1時30分からはマグロの解体ショーに続き、刺し身を振る舞う。午前11時30分からは魚のあら汁の振る舞い（先着200人）もある。



文化審が国有有形文化財登録を答申した細島灯台

正午からは中学生以上15人を対象にした魚のさばき方教室（当日受け付け）も計画。フラダンスや小学生による「よきこいソラン」、五十猛神社ひよっこ踊りの披露も。午後2時30分からはイセエビやイワガキ、同駅で使える商品券などが当たる大抽選会もあり、多くの来場を呼び掛けている。問い合わせは同駅（☎日向52・0771）。